



News Letter ☆ PIANC-Japan

国際航路協会 日本部会ニュース

March 2012 (Vol.11-3) The World Association for Waterborne Transport Infrastructure

**PIANC 年次総会 (AGA) と PIANC Mediterranean Days のイベントが
2012年5月22日から25日までスペインのバレンシアで開催されます**

登録費用とホテルの料金は下記の通りです。登録費は早期の登録の方が安くなりますので、お早めに登録をお願いします。

PIANC ホームページ (www.pianc.org) から、このイベントのホームページに入れます。なお、登録のページに進むためには PASSWORD が必要です。BREAKWATER がパスワードになっています。

会員の皆様の参加をお待ちしています。

Registration fees (登録費)

Type of rate	Valid until	Valid from
	March 14th, 2012	March 15th, 2012
Delegates AGA (Meddays not included)	200€	200€
Delegates AGA (Meddays included)	520€	600€
Accompanying person (included Meddays)	150€	150€

Accommodation (宿泊費)

Hotel	Type of Room	Double Room	Double Room
		Single Use	
Balneario Las Arenas 5* GL Hotel	Classic Room	166,00 €	186,00 €
	Deluxe Room	211,00 €	226,00 €
Neptuno 4* Hotel		130,00 €	145,00 €
NH Ciudad de Valencia 3* Hotel		65,00 €	75,00 €

執行委員会 (ExCom)、65 回評議会 (Council) 及び事務局長会議 出席報告

MarCom 委員
日本港湾協会
樋口嘉章

2012 年 2 月 2 日および 3 日に表記会議が PIANC 本部 (ベルギー) で開催されました。ExCom には川嶋康宏本部副会長、Council には、川嶋副会長に加えて小野憲司政府代表 (港湾空港技術研究所特別研究官)、須野原豊 PIANC-Japan 会長、成川和也住友ゴムマネジャー及び樋口 (事務局長会議代理出席) が出席しましたので、その概要を報告します。

1. ExCom (川嶋副会長からの報告)

会議は 2 月 2 日の 9 時から 16 時まで、本部の会議室において、会長、副会長、委員会委員長等が出席して開催されました。主な議論とその結論は下記の通りです。

2) アクションポイントのフォローアップ

・2009 (?) 年 1 月 8 日に韓国に働きかけている。今回も主要港が団体会員として入会するように韓国代表に話をした。韓国側は検討努力するとのことであった。

3) WG の現状

・MarCom 委員長から WG53 報告書 (2010 年に出版された津波の報告書) に東日本大震災の際の津波被害の概要と得られた教訓を日本が本年 9 月の MarCom までにまとめ、これを同報告書のアペンディックスとすることが報告された。

3-5 マリーナ設計士

・カリキュラムが 1 週間で十分か等中身に疑問があり、もう少し詰める必要があるとの指摘に対して、委員長から (?) 中身は今後修正する旨、発言があった。

4) 予算

・会費のレベルが減っている国が 9 개국 (額にして計 17,100 ユーロの減) ある。

6) 表彰

① PIANC の賞

・De Paepe-Willems Award (2012 年)
・5 編の応募 (オランダから 3 編、スペインとポルトガルから各 1 編) があつたが、オランダの H. S. Jumelet 氏を表彰することとなつた。

② WWNA (Working with Nature Award, ワーキングウィズネイチャー賞)

・コンGRESの年に、EnviCom から WWNA を出すこととしたい旨、委員長から説明があつた。

③ PIANC の賞を出す考え方

・資料 7 の表のごとく全部で 8 賞ある。以前から De Paepe-Willems Award、ジャックニコル賞に応募するように言っているが、資料 7 中の 6 番は別として、普段からトライする気持ちが大切。

7) 人事関係

① 次期副会長候補

ノルウェーからトーレ氏、日本から須野原豊氏の立候補があつた。日本の須野原豊氏をヴァレンシア AGA で選定候補として推薦することとなつた。

② EnviCom 委員長

ハラルド・クテ氏 (独) が引き続き委員長を務めることとされた。

委員長には多くの国から立候補があることを期待している。

2. 事務局長会議

会議は2月3日の9時半から12時半まで、約20名（ヨーロッパ諸国、アメリカ、アルゼンチン、インド、イラン、大韓民国、日本）が参加して本部会議室で開催されました。

1) 財政状況と会員数の状況

① プラチナ会員

ドイツで新規加入があった一方、インドで退会があったことが報告された。

② 会員の状況

2) 出版の基本方針

① 会員限定サイト

② 校正の仕事をするグループ

③ 出版

—e マガジン、ニュースレター、
WG レポート、イヤーズブック
—ナショナル・セクションからの寄稿

PIANC の機関誌” On Course” に各国セクションから最低年に1本、記事を出してもらいたい。

—広告

昨年12月にイヤーズブック広稿出稿を募る手紙を出したが反応がない。

・会員の一部には、会費を払っているのに印刷物が送られてこなくなったことについての不満がある。

・会費の請求についてはメールで行った場合、忘れられてしまう場合があるので、督促は郵便で送った方がよいかもしれない。

・PIANC のネットワークで働く意義をふまえて、個人会員にもなってもらいたい。

3) 2012 年次総会と地中海ディ

・スペイン代表より、ヴァレンシアで5月22日に年次総会、23～25日に地中海ディが開催されることが紹介された。

・AGA における各国の投票数一覧表が提出された。日本は最大票数11票を持つ11カ国の

一角を占めている。

4) 表彰

・ De Paepe-Willems Award、ジャックニコル賞
・5編の応募（オランダから3編、スペインとポルトガルから各1編）があったが、オランダの H. S. Jumelet 氏を表彰することとなったことが報告された。

・ WWNA

・コンGRESの年に、EnviCom から WWNA を出すこととしたい旨、委員長から説明があった。

・最高のナショナル・セクション

・他の賞

5) その他

・イベント・カレンダー

2013年のAGAと地中海ディは5月フランス（マルセイユ）、2015年のスマート・リヴァーについては、5月のAGAでアルゼンチンとインドのどちらかに決定する予定。

・Working with Nature のケース・スタディー（事例集）

・主だったインフラ・プロジェクトに関するデータベース

3. Council

会議は2月3日の13時半から16時まで、ヨーロッパ諸国、アメリカ、インド、アルゼンチン、イラン、エストニア、大韓民国、日本など約40名弱の各国代表が参加して本部会議室で開催されました。

コード会長の挨拶、前回議事録の確認の後議事に入った。IAPH、世界水会議、PIANC の機関誌” On Course” に各国セクションから最低年に1本、記事を出してもらいたい。

1) アクションポイントのフォローアップ

2) 事務局長会議報告

① 事務局長より午前中の事務局長会議の概要について報告があった。（上記参照）

②会員資格と国際航路協会の認知度

・会員は報告書をネット上でダウンロードできるようになっているが、個人会員が多くの部数ダウンロードしているのは問題だとの発言が米よりあった。

3) 2011 年年報

4) ヴァレンシア AGA で承認を求める提案事項

①副会長の任命

ExCom において、次期の副会長候補として日本の須野原豊氏 (PIANC-Japan) とノルウェーのトーレ氏の立候補があったが、次期の副会長として須野原氏を推すこととされたことが報告された。PIANC の活動を東アジア地域において強化していきたいとの方向性が言及された。

日本の政府代表小野憲司氏よりノミネーションに対する御礼が述べられた。



写真 小野憲司政府代表の挨拶

②EnviCom の議長委任の更新

ハラルド・クテ氏 (独) が引き続き EnviCom 委員長を務めることとされた。

③YP-Com の議長候補の指名

④財政状況

一会員の動向と会費減額

英仏等欧州 7 か国、米、印について 2012 年の会費を 2011 年に較べて減額することとされた。

—2011 年会計の承認

—2012 年予算の承認

—2013~2015 年の事業計画の承認

5) PIANC の賞

①De Paeppe-Willems Award (2010 年)

・5 編の応募 (オランダから 3 編、スペインとポルトガルから各 1 編) があったが、オランダの H. S. Jumelet 氏を表彰することとなったことが報告された。

②RecCom より、ベストマリーナ賞をスペインのコンバロマリーナとすることが報告された。

③主だったインフラ・プロジェクトに関するデータベース

主だった水上交通関連インフラ・プロジェクトについて、各ナショナル・セクションでひな形を埋めてもらうことで、データベースを作りたい。

6) 国際的な活動

①PIANC-COPEDEC 2012-2016

②世界水フォーラム

・PIANC からの発表にどれだけ時間がもらえるか調整している。

③AGA (年次総会) と地中海ディ 2012、

④行事カレンダー

⑤将来のイベントの開催場所

7) その他

① 各国政府投票数の確認

② Congress、AGA

事務局長会議での現況説明と同じ内容が説明された。

・機関誌の質を保つためには、適切な記事が必要である。情報の提供をお願いする。

PIANC, MarCom (於ブリュッセル) の報告

(社) 日本港湾協会 企画部長
樋口嘉章

PIANC の MarCom は、年に 2 回、2 月と 9 月に開催されています。今年の 2 月の会議は 1 月 31 日の午後から 2 月 1 日の午前までブリュッセルで開かれました。

セクレタリーを務めていたジャン・ベルナル・コヴァリック (フランス人) がフランス政府内で昇任して多忙となり、MarCom のメンバーから外れることとなったため、後任のフランスからのメンバーとして、ドミニック・エティエンヌが加わるとともに、セクレタリーも引き継ぐこととなりました。

今回の会議の議事概要は下記の通りです。

- ① 議事予定の確認
- ② 新メンバーの紹介
新メンバーとして、ドミニックが紹介された。今回の出席者はドミニックを入れて 13 名であった。
- ③ 議事録確認及び前回のアクションリスト
- ④ MarCom2011 年年報とイヤーズブック 2012 への寄稿
- ⑤ 議長より ExCom 関連の報告
津波アペンディックスについての MarCom からの提案が認められたことと、コード会長より主なインフラ・プロジェクトについてのデータベースを作ることが提案されたことなどが報告された。
- ⑥ 戦略的計画と MarCom の将来プログラム
 - ・ウェブページの一般向けエリアで MarCom の存在感を増すこと
 - ・セミナーを企画する等して WG の成果を広めること
 - ・最低年に 2 件程度 TOR を決めていくこと

- ・新たに取り組むべきテーマについて
- ⑦ WG に関しての一般的所見
 - ・ MarCom メンバーが WG の議長である際の MarCom からのメンターを同一人物が務めるかについて、ケース・バイ・ケースで柔軟に対応していくこととされた。
 - ・ PIANC のルールと規則について
 - ・ 読者からの報告書に関する質問への対応について
 - ⑧ 活動中の WG についての進行状況報告
 - WG47 (防波堤タイプの選定) すでに 8 年経っているが、終わっていない。ハンス議長の作業の関係で、最終報告書がまだ出されていない。
 - WG48 (バウスラスターに関する港湾建設ガイドライン) 2 月初めに最終ミーティングが予定されている。本 WG も 2007 年に発表して以来、月日も経っていることから、本年 3 月末までにレポートが出されない場合は、会長・MarCom 議長名で議長あて WG を廃止する旨レターを出すこととなった。
 - WG49 (航路の鉛直・水平寸法) 昨年 9 月に発表して以降、最終報告書に向けて 3 章 (水平寸法) で遅れている由。
 - WG51 (水ジェット浚渫) 最終段階となっている。
 - WG52 (コンテナ船の積み下ろし基準) 2 月末まで MarCom メンバーからの最終コメントを待って最終版とする。
 - WG53 補章 (津波、東日本大震災の津波災害とその教訓) 日本で作業グループを作って 2012 年 9 月の MarCom で発表するこ

とを報告した。

WG54 (港湾への安全なアクセスのための海象気象情報活用) レビューした後すでに本部に送付済み。

WG55 (オイル・ガスタンカーの接岸作業の安全性) 校正後本部へ送付の予定。

WG135 (中小規模港湾におけるコンテナ・ターミナル設計の原則) 次回9月会議で議長の発表予定。

WG144 (海上浚渫における土と岩の分類) 次回9月会議で発表予定。

WG145 (接岸速度と防舷材の設計) キックオフミーティングが開催された。2012年末までにD/Fをまとめ、2013年2月の会議で発表の予定。

WG152 (旅客ターミナルのガイドライン) 近々キックオフミーティングが予定されている。

WG153 (海洋石油ターミナル設計のための勧告) 2013年9月に中間発表予定。

EG160 (海洋構造物設計の一般原則) (旧WG50) メンバー・リストが大体確定した。日本からは国土技術政策総合研究所港湾研究部港湾新技術研究官の松本英雄氏が参加することとなった。本年の3月にブリュッセルでキックオフミーティングを行う方向で調整中。

⑨ 新しいグループの立ち上げ

WG146 (固形バラ貨物用の載せ替え浮体ターミナル) 少人数しかメンバーが集まらないため、廃止することとする。

WG158 (既存港湾開発のためのマスタープラン)

・8人のメンバーがエントリーしている。日本、米国、フランスからの参加について、可能性を探るよう求められた。

WG159 (海港における再生可能エネルギー) フェランテ氏 (伊) が議長を務める

こととされた。

WG161 (沖合風力発電風車と船舶航行の相互関係) 5名の参加が予定されているが、さらにメンバーを募ることとなった。

⑩ 新しいWG、TORのドラフト

・「新しい海洋コンクリート社会資本の耐久性と供用寿命に関する勧告について」のTORが提案され、2月3日に開かれるExComに諮っていくこととされた。

・「浚渫による旧港エリアのグレードアップ」、2月末までにTORについての意見。5月のExComに諮ることとする。

・ダン・アレン (米) より「コンテナ・ターミナルの舗装維持」、2月末までにTORについての意見。5月のExComに諮ることとする。

・新しいTOR、RoRo船についてトーレ (ノルウェー)、LNGターミナルについてリュック (ベルギー)

⑪ 他の委員会との協力

・EnviComのWWN (ワーキング・ウィズ・ネイチャー)、アルジャン (オランダ) より9月に発表予定。

・PTG (パーマネント・タスク・グループ) 気候変動

・EnviCom 持続可能な海上輸送 水上交通のエネルギー効率上の利点などにあまり言及されていない。

・InCom WG140 内陸水運施設の半確率論的設計コンセプト

・内航船の海港への直接アクセス 2012年1月に最後のWGが開かれた。

⑫ MarComの特別な活動

・地中海ディ (5月23日~25日、西、ヴァレンシア)

・2012年の年次総会 (5月22日、西、ヴァレンシア)

・第5回インターモーダル・ SHIPPING

2012 (12年10月、ウクライナ、オデッサ)

- ・国際交通フォーラム (5月初め、独、OECD)
- ・ウォーターディクショナリー
- ・PIANC マガジンへの短いレポート WGのメンターによる技術的課題についての記事等
- ・ウェブサイト MarComのメンバーのサイトの運用についての意見交換

⑬ 次回会議

- ・次回の MarCom については、9月21日(木)～22日(金)にドイツのヴィルヘルムハーフェンで開催することに決定した。21日に終日会議、22日に同港の新しいコンテナ・ターミナルなどを視察する予定。
 - ・2013年9月については日本(仙台または八戸、津波災害からの復興)で開催することに決定した。2014年9月についてはイタリア(ヴェニス、モーゼ・プロジェクト)で開催される見込みである。
- 今回の MarCom では WG からの発表はなく、新 WG や新しい TOR についての議論を行いました。

2月の会議の開かれる時期は例年寒いのですが、今年は寒波の影響で最高気温が氷点下5度といった日もあり、2月3日の評議会からホテルに戻るときは、吹雪いていました。また、会議の前日にブリュッセルでゼネストが行われ、交通機関が全面的に止まったり、帰国の日は前日の雪の影響で飛行機やシャルル・ド・ゴール空港に行くTGVが大幅に遅れるなど、なかなか印象的なブリュッセル滞在でした。



写真：左からエステバン議長、コヴァリック前書記、エティエンヌ新書記 (2012/02/16)